

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立鍋島中学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日

令和8年4月23日（木）

（注）中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年

中学校第3学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

- ・ 全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。
- ・ また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。
- ・ 中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

- IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

調査結果及び考察

質問調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	88.4	78.8
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	93.9	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	94.9	92.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

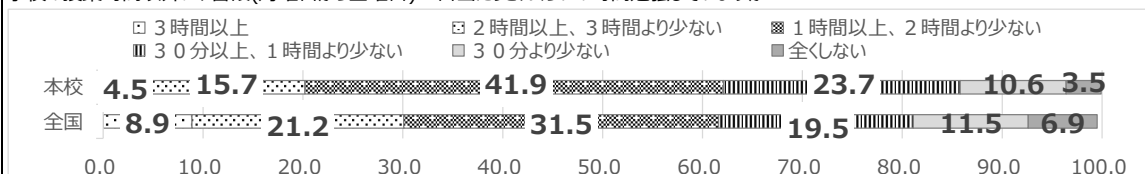
◎自ら課題に向き合い、学び方を工夫しながら学習に取り組もうとする姿が見られます。
◎対話や協働を通して学びを深めようとする意識も高い傾向が見られます。

●家庭学習については2時間以上の生徒が2割程度、1時間未満の生徒が3割以上となっており、全国平均と比べるとやや低い傾向にあります。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	88.4	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	88.9	79.0

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	86.8	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	72.2	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	90.9	85.4
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	92.9	91.0

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎多くの生徒が学校生活を前向きに捉え、自分のよさを感じながら生活している様子がうかがえます。

◎人、地域や社会の役に立ちたいという思いが高く、他者や社会への関心が育っています。

●将来の夢や目標を持っている生徒は全国平均と比べ高いものの7割となっており、キャリア教育を一層充実させる必要があります。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.0	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	85.9	72.3

調査結果を受けて

【学校では】

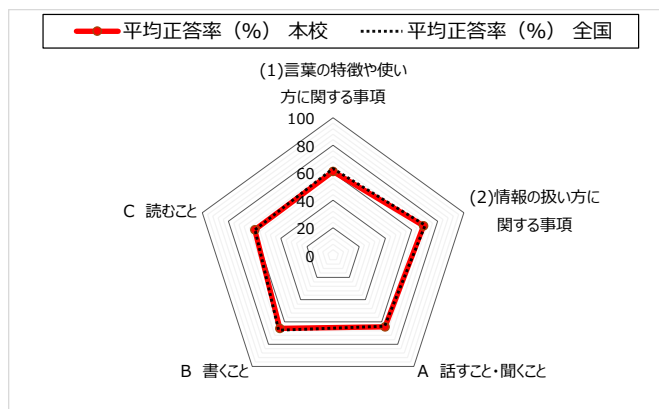
- 主体性を伸ばすために、授業や学校生活において「自己決定」を意識した場面を設定していきます。授業では、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりするために、ICT機器を活用しながら、「鍋中学び合い」のさらなる質の向上を目指して授業改善を行っていきます。
- サクセスカレンダーを活用した具体的な学習計画の作成と振り返りを行うことで、自己調整力を育む取組を行っていきます。

【ご家庭では】

- 結果だけでなく、考えた過程や挑戦した過程にも目を向け、認め励ます声かけをお願いします。大人はお子さんの成長を見守り、伴走支援で関わる姿勢が大切です。
- 「家庭学習の手引き」やお子さんのサクセスカレンダーの学習内容や時間などをご覧になり、自分で決めて学習できるように励ましてください。将来や目標達成に向け努力できていることを対話を通してたくさん認めてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	60.9	63.0
	(2)情報の扱い方に 関する事項	69.2	70.4
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	64.3	63.9
	B 書くこと	65.8	67.4
	C 読むこと	59.9	59.7



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	71.7	72.7
短答式	53.0	55.8
記述式	46.5	45.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 今回の調査で、「A 話すこと・聞くこと」が0.4ポイント上回りました。話し合いを通して自分の考えをまとめる言葉の力であり、普段から「鍋中学び合い」の中で自分の考えをもち、交流している成果が表れていると考えられます。

● 言葉の意味や文法、国語辞典の使い方など、言葉の特徴や使い方に
関する事項には課題が見られます。意味調べや、文法の習熟の時間を
充実させる必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2四	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる	58.6	52.7
4一	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述をもとに捉えることができるかどうかをみる	73.2	71.6

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1二	単語の類別についてりかいしているかどうかをみる	67.7	70.2
4二	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる	31.3	35.2

調査結果を受けて

【学校では】

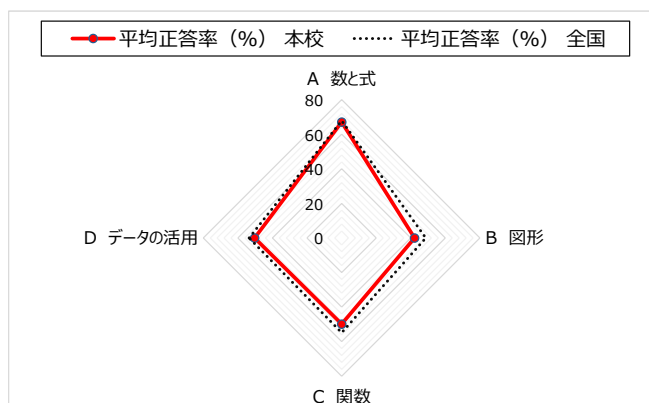
- 各単元において、新出漢字や言葉の意味調べを行い、文脈上の意味を捉える学習活動を充実させます。
- 言葉の、文中での働きや用法に着目させるなど、文法事項を実際の文章の中で捉える学習活動を充実させます。

【ご家庭では】

- 授業で習ったことを復習することは大切です。ワーク等に確実に取り組むよう見守ってください。
- テストで間違えた問題をそのままにせず、解き直しをして、振り返りをするようお声掛けください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と式	67.0	67.8
B 図形	42.2	48.7
C 関数	49.8	54.8
D データの活用	50.3	53.5



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	56.4	59.3
短答式	60.2	64.2
記述式	35.9	39.1

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 今回の調査では、全国平均と比べて、他の領域が下回っている中で、「数と式」の領域が同程度となりました。「鍋中学び合い」でわからないところをそのまませず、小テストや単元末テストなどで練習した成果だと考えられます。

● 課題は、「関数」の領域での反比例の意味や「図形」の領域での証明において、全国平均を大きく下回りました。今後も「関数」領域においては、式・表・グラフの特徴を把握できるように既習事項の振り返りを行っていきます。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
9(3)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる	37.9	31.9
6(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる	75.3	73.2

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
8(2)	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	32.3	46.1
4	反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、xの値に対応するyの値を求めることができるかどうかをみる	46.5	55.3

調査結果を受けて

【学校では】

- 授業において「鍋中学び合い」を取り入れ、自分の考えを数学用語や式を活用して表現する活動を行います。
- 単元の中で小テストや単元末テストを実施し、基礎・基本の定着を図ります。
- 振り返りシートの記入やICT機器も活用して、自分がわかったことや理解が不十分なことを明確にして、「振り返り」を行います。
- 定期テストやレポート課題を活用して、数学的用語を用いた文章表現に慣れさせ、思考力の向上を図ります。

【ご家庭では】

- 授業で習ったことを、短時間でもよいので、デジタル教科書やワークを使って、復習することで計算力が身についていきます。ご家庭でも生徒が学習できる時間の確保をお願いします。
- タブレット端末を使って、eライブラリやデジタル教科書などで、家庭学習に取り組むような言葉かけをお願いします。
- テスト終了後は、間違えた問題をそのままにしないように必ず解き直しをして、振り返りをするように言葉かけをお願いします。

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	502
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	1.3 / 2	2.6 / 5	0.7 / 2
全国	1.2 / 2	2.6 / 5	0.7 / 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
3	聞くこと	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる
8	読むこと	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる

《課題が見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
4	聞くこと	日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる
14	書くこと	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる

結果 ※○（強み）、●課題

◎今回の調査では、大問3の正答率は全国の結果に対し、本校は5.0ポイント高い結果でした。また、大問8の正答率も全国に対し、本校は5.2ポイント高い結果でした。結果から、日常的な話題について、要点をとらえたり、必要な情報を捉える力が身についていると考えられます。

●「書くこと」について、大問14の正答率が全国に比べ7.5ポイント高く、得点できています。しかし、無回答率が他の技能（読むこと・聞くこと・話すこと）に比べて高い傾向でした。このことから「書くこと」に苦手意識をもっている生徒が一定数いるという課題が明らかになりました。「書くこと」に対する苦手意識を克服するため、日頃の授業で、スモールステップで書くことに取り組めるよう工夫する必要があると考えられます。

調査結果を受けて

【学校では】

- 授業の中で行っているQ&A問題を口頭で行うなど、「目的・場面・状況」の枠組みを設定し、「聞く力」を育成する活動を増やします。
- 英語に苦手意識をもっている生徒が興味をもてる教材の工夫、提示の仕方の工夫を行います。例として、協働的な活動を取り入れて、級友と話したり、書いたりする活動を充実させていきます。

【ご家庭では】

- 自分が興味がある題材のYoutubeの動画や洋画・洋楽などを利用して、英語に触れる機会をもってください。
- コミュニケーションをとる楽しさを大切にし、積極的に自分のことを表現する態度を認め、励ましてあげてください。